

# 西大寺鐵道

## けえべん

かつて、日本三大奇祭のはだか祭り「西大寺会陽<sup>きよう</sup>」で知られる岡山市西大寺と、岡山市中心地にある日本三名園の岡山後楽園を結ぶ11.5キロを、ガタゴト、ガタゴト走る軽便鉄道がありました。それが、西大寺鉄道です。「けえべん」の愛称で親しまれ、閉業から半世紀たった今でも地域の方々に愛され続けています。



西大寺市(当時)と岡山市を結び、地方の産業・経済・文化に大きく貢献し、岡山県の交通文化に偉大な功績を遺した「西大寺鉄道」は、遂に52年にわたる長い歴史を閉じ、昭和37年9月8日、発祥の地である西大寺市において閉業式が盛大に行われた。会場には西大寺鉄道に別れを惜しむたくさんの人々が集まり、数々の思い出を語り、その功績を讃えた。

そしてその功績に対して岡山県や西大寺市など各方面から賛辞の感謝状がつぎつぎと贈られ、半世紀にわたる偉大な歴史が飾られた。最後に、西大寺鉄道をつかった物故者をはじめ従業員に表彰状が松田基(当時)社長から贈られた。

西大寺鉄道のたどった道は決して平坦ではなく、むしろ波乱に満ちていた。しかしいつの時代にも経営者と従業員のたゆまぬ努力は社会の公器としての信頼と誇りを築きあげ、その精神と使命は西大寺鉄道が歴史の中から育て上げた両備グループに引き継がれている。

(西鉄記録映画「風雲五十二年～輝く西大寺鉄道～」より)



## 西大寺鐵道のあゆみ

吉井川の河口近くに、古くから「はだかまつり」で有名な西大寺の町はひらけた。かつてその港は作州(美作)地方や遠く阪神地方から商売にやってくる船で賑わい、西大寺は商業の中心地として栄えた。便利な海上の交通に比べて、陸上交通は全く発達しておらず、農業のほかには目ぼしい産業もない西大寺は、当時これ以上の発展は望めなかった。明治の終わり頃、西大寺の産業と文化の発展に繋がる鉄道建設の構想が時の町長・山口誠孝氏や松田与三郎翁によってたてられた。こうして西大寺鉄道は、明治43年、町民の希望と大きな使命を担って創立された。

施設工事も順調に進み、明治44年12月にまず西大寺―財田が早くも開通し、翌45年1月には西大寺―森下間が開通、盛大な開通式が行われた。さらに大正4年11月には最後の区間の後楽園線が開通し、西大寺―後楽園間11.5kmの全線が開通した。

当時の機関車は立派なドイツ製の蒸気機関車が使われた。このころから西大寺鉄道は「けえべん」の愛称で親しまれ、西大寺と岡山を結ぶ唯一の陸上交通機関として活躍した。けえべんは黒い煙をモクモクはき、ピーピー汽笛を鳴らしながら備前平野を駆け抜けた。

黒い煙をはく蒸気機関車に替わって、スマートなガソリンカーが登場したのは昭和6年のことである。岡山―西大寺間の市バスとの間に激しい乗客の奪い合いを演じた西大寺鉄道はガソリンカーを投入し、スピードアップをはかった。しかも20分ごとに発車させるダイヤを組む。このころが最も苦しい時代だった。

昭和の中頃、日本は暗い戦争に突入。極度のガソリン不足によってガソリンカーは改造され木炭ガスで走った。この新ガス発生炉装置は西大寺鉄道が初めて完成させたもので全国から見学者がやってきた。客車も大きく改造され戦中・戦後の混乱期を駆け抜けた。

戦争も終わり、平和な日々が巡ってきて、けえべんは再び静かな田園を相も変わらずガタゴトガタゴト走り続けた。昭利37年9月、赤穂線の開通によって、明治・大正・昭和の三代に渡って走り続けた西大寺鉄道はその任務を終え、バトンを赤穂線に譲った。

|      |             |                                                      |
|------|-------------|------------------------------------------------------|
| 1931 | 昭和 6年11月    | 機関車使用中止による機関助手不要で人員整理問題が起る                           |
| 1935 | 昭和10年10月    | 松田壮三郎氏専務取締役任に就任                                      |
| 1935 | 昭和10年10月25日 | 松田与三郎氏が会長に就任                                         |
| 1935 | 昭和10年11月28日 | 岡野桂太氏が新社長に就任                                         |
| 1936 | 昭和11年 5月25日 | 両備バス株式会社創立(西鉄、下電経営)                                  |
| 1937 | 昭和12年 1月 1日 | 内務省の旭川改修工事に伴い、後楽園駅を移転<br>このため、営業キロ11.5が11.4キロと短縮された。 |

|      |             |                        |
|------|-------------|------------------------|
| 1937 | 昭和12年 7月 7日 | 支那事変が勃発した              |
| 1939 | 昭和14年 2月    | ガソリンカーに新瓦斯発生炉を取付け試運転開始 |

|  |  |                                                                                                            |
|--|--|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  |  | ガソリンの消費規制はいよいよ厳しく、<br>このため輸送力が低下し運輸収入は激減、<br>これの防止対策として実施。ときの一工<br>務員であった森国三平は土光機関区主<br>任を助け西鉄独自のものを完成させた。 |
|--|--|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



戦時中のガソリン不足から薪でガスを発生させた

|      |             |                                |
|------|-------------|--------------------------------|
| 1944 | 昭和19年 4月27日 | 岡山競馬場駅営業休止                     |
| 1944 | 昭和19年 9月19日 | 暴風雨で線路敷地全長3キロにわたり浸水、<br>広谷駅舎半壊 |

|      |             |                          |
|------|-------------|--------------------------|
| 1945 | 昭和20年 8月15日 | 第二次世界大戦終戦                |
| 1946 | 昭和21年 9月29日 | 松田基氏、専務取締役に就任            |
| 1947 | 昭和22年11月15日 | 西大寺―岡山間、<br>一般乗合旅客運送事業開始 |



機関車に代わって威力を発揮したガソリンカー

|      |             |                               |
|------|-------------|-------------------------------|
| 1949 | 昭和24年 6月    | 蒸気機関車をスクラップとして売却              |
| 1951 | 昭和26年 6月11日 | 大型内燃動車100号を小型に設計変更し、<br>2両に改造 |

|      |             |                         |
|------|-------------|-------------------------|
| 1952 | 昭和27年 2月 5日 | 両備バス(株)の資本系統が西大寺鉄道一本となる |
| 1953 | 昭和28年 4月 1日 | 西大寺町駅を西大寺市駅に改称          |
| 1953 | 昭和28年11月10日 | 岡山競馬場駅廃止                |

|      |             |                         |
|------|-------------|-------------------------|
| 1955 | 昭和30年10月 1日 | 西大寺鉄道株式会社と両備バス株式会社合併    |
| 1956 | 昭和31年10月 1日 | 原尾島駅新設(元競馬場跡に県営住宅建設のため) |
| 1962 | 昭和37年 9月 1日 | 国鉄赤穂線全通                 |

|      |             |                       |
|------|-------------|-----------------------|
| 1962 | 昭和37年 9月 6日 | 西大寺鉄道線は52年1ヶ月の永い歴史を終る |
| 1962 | 昭和37年 9月 8日 | 西大寺市立中学校体育館において閉業式挙行  |



さよなら列車

## 西大寺鐵道 年表

|      |             |                              |
|------|-------------|------------------------------|
| 1910 | 明治43年 7月31日 | 西大寺観音院で「西大寺軌道株式会社」<br>創立総会開催 |
| 1911 | 明治44年 2月23日 | 本社とその付属建物、車庫の建築に着工           |
| 1911 | 明治44年 5月13日 | 線路の敷設工事起工                    |
| 1911 | 明治44年 5月15日 | 本社、車庫等の建築竣工                  |
| 1911 | 明治44年12月29日 | 西大寺―長岡間の運転開始                 |
| 1912 | 明治45年 1月19日 | 長岡―森下間の運転開始の許可が下りる           |



現在も両備バスの事務所として残る西大寺鉄道本社屋

|      |             |                        |
|------|-------------|------------------------|
| 1912 | 明治45年 1月28日 | 西大寺―森下間が全通したので盛大な開通式挙行 |
|------|-------------|------------------------|

|      |             |                                                            |
|------|-------------|------------------------------------------------------------|
|      |             | ▼開業当時の駅名                                                   |
|      |             | 観音(西大寺市)／松崎(広谷)／大多羅／岩間(長利)／<br>長岡(財田)／関(大師)／二本松(藤原)／原尾島／森下 |
| 1912 | 明治45年 4月29日 | 専務取締役山口誠孝氏死去。松田与三郎氏が後任に就任                                  |
| 1914 | 大正 3年 7月 1日 | 鉄道院と連帯運輸をするために駅名を変更                                        |

|      |             |                                                                                                                    |
|------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |             | 観音を西大寺に、松崎を広谷に、岩間を長利に、長岡を財田に、<br>関を幅多に、二本松を藤原に改名。                                                                  |
| 1914 | 大正 3年 7月 4日 | 軌鉄条令下の運行から、軽便鉄道法下の運行に移行<br>軌道法では機関車に客車一両しか連結することが出来ないが<br>軽便法になると多数の車両が連結出来る。全国唯一となる<br>3尺ゲージであったことから特例をもったの移行となる。 |

|      |             |                           |
|------|-------------|---------------------------|
| 1914 | 大正 3年11月 2日 | 「西大寺鉄道株式会社」に商号変更          |
| 1915 | 大正 4年 5月15日 | 森下駅構内で後楽園線の起工式挙行          |
| 1915 | 大正 4年 7月29日 | 入場券発売制度実施(入場券1銭)          |
| 1915 | 大正 4年 8月18日 | 初代社長若崎虔氏辞任、松田与三郎氏が社長代理に就任 |
| 1915 | 大正 4年 9月 7日 | 後楽園線の敷設完了                 |

|      |             |                            |
|------|-------------|----------------------------|
| 1915 | 大正 4年 9月15日 | 検査を終って、後楽園駅は仮駅のまま営業開始      |
| 1915 | 大正 4年11月 4日 | 後楽園仮駅から新築駅に移転し西大寺―後楽園間が竣成  |
| 1916 | 大正 5年10月 7日 | 鳥坂山の虚空蔵大師へ参拝者が激増、幅多駅を大師と改称 |
| 1919 | 大正 8年 4月16日 | 松田与三郎氏が2代目社長に就任            |
| 1926 | 大正15年10月25日 | 株主総会において自動車事業の経営進出を決定      |

|      |             |                             |
|------|-------------|-----------------------------|
| 1927 | 昭和 2年 2月 1日 | 西大寺鉄道の傍系会社として岡山市街乗合自動車(株)設立 |
| 1929 | 昭和 4年 6月 2日 | 西大寺鉄道の傍系会社として岡山乗合自動車(株)設立   |

|      |             |                  |
|------|-------------|------------------|
| 1931 | 昭和 6年 7月 9日 | 西大寺鉄道にガソリンカーが初登場 |
| 1931 | 昭和 6年 9月18日 | 満州事変起る           |
| 1931 | 昭和 6年11月11日 | ガソリンカー(小型)4両増車する |

|  |  |                                              |
|--|--|----------------------------------------------|
|  |  | 蒸気機関車は朝夕のラッシュ時だけ運行、その他は全般的に<br>ガソリンカーを走行させた。 |
|  |  | 合理化に基づくもので、ガソリンカーは20分ごとに発車した。                |

一歴史的な日一

## 開通式の当日

開通式の当日、町家の戸口には日の丸の国旗を挙げ、式は観音駅で行われた。また観音院では園遊会が開かれ、小学生は旗行列、夜は提灯行列を行って開通の喜びを共に分けあったのである。

西大寺町とその周辺の人達にとって、汽車は珍しいものでありまた恐ろしいものでもあった。

「何と大きい鉄の車じゃなあ、あれがモクモク、黒え煙を吐いて走るそうな」  
「1月の28日に西大寺から森下の方へ走るんじゃそうな」  
こんな罪のない話が素朴な農民の間でとりかわされていた。

当日は、寒気肌を刺すほどであったが、空はよく晴れ、西大寺駅頭には早朝から開通式の盛儀を見んとする草鞋ばきの農民、町家の子弟らしい羽織姿の若者、幅広いリボンをつけた良家の令嬢等がひしめきあっている。その間を背の高い巡査が声高に何か叫びながら佩剣をガチャつかせて忙しそに人垣を整理していた。

先刻から人々の視線を集めていたのは、ヒョロ高い煙突をきわだたせている、たった1両の客車をつないだ列車の姿であった。初めて汽車に乗るらしい農家の老翁が寒そうに、だがそわそわとうれしそうにデッキを踏む。インパネスを風になびかせながら中年の男も客車の中へズイとすむ。乗客はみんな一斉に客車の窓から顔を出していた。ついに汽車はモクモクと真黒な煙を吐き始めた。たちまちワットと歓声がある。機関車の調子は上々。徐々に、黒光りする鉄の轍がきしみ始めた。

「万歳、万歳、万歳」  
汽車は車窓で手を振る人々を乗せて、西へ西へと遠ざかって行った。この日この瞬間こそ、岡山県の交通史上に永遠に残る、感激の一頁だったのである。

(「西大寺鉄道五十二年の歩み」より)



制作・発行

(不許複製)

2023.03 改訂

両備ホールディングス(株)両備経営サポートカンパニー

Tel.086-232-2118 E-mail:soumu01@ryobi-holdings.jp  
URL:http://www.ryobi-holdings.jp/

【協力】 岡山市立東公民館 / 岡山市立旭東公民館 / 岡山市立西大寺公民館



